

第2回全国展開ワークショップ、第2四半期活動報告、短期専門家活動など

全国の県公共事業運輸局および水道公社が集い、全国展開ワークショップ第2回目が開催されました。今回のテーマは現状分析→問題分析→長期計画策定というステップの初回、水道公社の現状分析です。パイロット3水道公社がモデレーターとなりワークショップを進行しました。

前号から開始したC/P組織ごとの当面の活動項目とその進捗報告は、今回は公共事業運輸省・水道規制室(WASRO)の活動進捗を報告します。

他には、2015年度第1陣短期専門家活動の様子、2名受け入れたインターンの様子もお伝えします。



第2回全国展開ワークショップ開催

全国展開ワークショップ第2回目が開催されました。

9月24日に実施されたワークショップのテーマは現状分析→問題分析→長期計画策定というステップの初回、水道公社の現状分析です。何に対しての現状分析かを明確にするために、公共事業運輸省・住宅都市計画局(DHUP)のNoupheuak副局長より2030年を目標にした水道・衛生分野戦略の概略、下村リーダーによる「戦略」のスローガン「Safe, reliable and affordable water supply and sanitation for ALL」と「Provision of treated water supply by regulated, self- (続きは2ページ)



C/P活動進捗報告:WASRO

MaWaSUプロジェクトのカウンターパート(C/P)は広義でいえば全国の水道公社と水道行政になりますが、3つのパイロット水道公社を設定し、そこを拠点に全国展開システムを構築するため、狭義では①首都ビエンチャン水道公社(中央部)、②ルアンパバーン県水道公社(北部)、③カムアン県水道公社(南部)の3パイロット水道公社に加えて、水道行政は中央レベルの④公共事業運輸省・住宅都市計画局(DHUP)・水道課(WSD)と⑤水道規制室(WASRO)、県レベルの3パイロット県の⑥県公共事業運輸局(DPWT)になります。

(続きは3ページ)

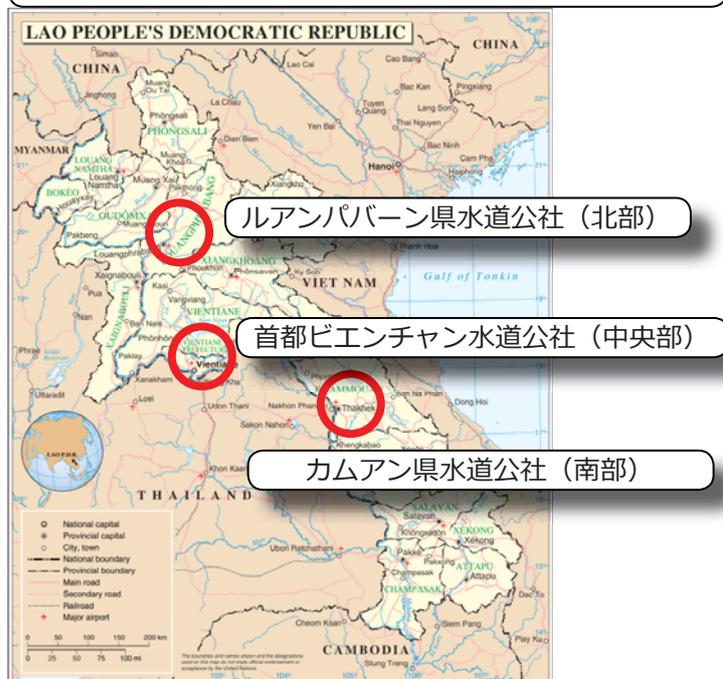


ラオス水道公社事業管理能力向上プロジェクト

ラオス国では1999年に出された首相令により、2020年までに都市人口の8割に対して24時間の安全で安定的な都市給水を行うことを目標としています。JICAをはじめ各ドナー機関はこれまでに様々な支援を行っていますが、2010年の都市における水道普及率は55%にとどまっています。国が掲げる目標値を達成するためには、水道施設のさらなる拡張・更新、そのための事業運営の効率化を通じた投資資金の確保が必要です。事業運営効率化に向けては、これまでに短期的な計画策定とモニタリングの枠組みが設定されています。しかし、自力では短期計画の策定や更新ができない水道公社が多く実効性に乏しい枠組みとなっています。また、水道施設拡張・更新に必要な、中長期的な水需要予測や財政収支見通しに基づく事業計画の策定とモニタリングは管轄省庁である公共事業運輸省による制度化すらされておらず、現にほとんどの水道公社は中長期事業計画を有していません。

そのため、本プロジェクトでは、公共事業運輸省を主なカウンターパートとし、首都ビエンチャン、ルアンパバーン県、カムアン県の水道公社をパイロット水道公社に選定し、①事業計画策定に必要なデータ管理強化、②短期・中期・長期事業計画策定/実施能力強化、③事業計画モニタリング強化、④水道事業計画技術ガイドライン整備、⑤事業計画策定の全国普及へのメカニズム構築を行い、事業管理能力強化の仕組みの整備を行っています。

パイロット水道公社 (3公社)



第2回全国展開ワークショップ開催(続き)



Noupheuak DHUP副局長による
水道・衛生分野戦略の紹介

「financing service providers」のキーワード解説をもとに3つの地域(北部・中部・南部)に分かれてグループ討議が行われました。

グループ討議を司会進行するのは3パイロット水道公社です。北部・ルアンパバーン県、中部・首都ビエンチャン、南部・カムアン県のそれぞれの総裁、副総裁がモデレーターとして大活躍しました。これまではグループ討議をする側であり、今回が初めてのモデレーターでしたが3年間のPCMワークショップ・問題分析方法をしっかりと学んだ成果が現れた一面でした。

各県が選んだ現状分析としての中心課題は、資金不足から人材育成不足、水量不足、未集金増加、NRW増加、水質問題、水道サービス全般に至るまで多岐多様に亘りました。PCM手法の特徴のひとつは論理性であり、現状の問題を【原因—結果】の因果関係から明確にすることです。いくつかの県では中心課題から【原因—結果】を論理的に説明できましたが、PCM手法に不慣れなグループは包括的、抽象的な説明に留まりました。今回のワークショップを通じて現状把握・問題分析の方法を学び、各県水道公社で繰り返し実施すると理解が深まるものと思われます。

【結果】の因果関係から明確にすることです。いくつかの県では中心課題から【原因—結果】を論理的に説明できましたが、PCM手法に不慣れなグループは包括的、抽象的な説明に留まりました。今回のワークショップを通じて現状把握・問題分析の方法を学び、各県水道公社で繰り返し実施すると理解が深まるものと思われます。

Photo Gallery



ワークショップで司会進行(モデレーター)を務めるViengthouay副総裁(首都ビエンチャン:右)、Chanthone副総裁(ルアンパバーン県:中央)、Khanngoun総裁(カムアン県:右)



2015年度第1陣短期専門家活動

この四半期(7月～9月)は、2015年度第1陣短期専門家の活動の月々でした。2015年度第1陣短期専門家は合計5名、6月3日～10月15日まで、それぞれ1～3ヶ月の派遣期間で活動しました。

今期間の3パイロット水道公社への主な支援内容は、①長期計画に基づく2015年年次計画の活動推進、②2015年前期決算、③2015年決算推定です。加えて、これまで取り組んでいる①2012～14年活動取りまとめ(第1次中期経営計画決算)、②2014年決算、③2015年予算(未完成のもの)、④2012～20年長期計画の年次割りです。

9月中旬からは、2016年予算作成に移行です。上記2015年決算推定を基に2016年予算を作成していきます。11月中には各部署で予算作成終了し、12月に経営陣に提案、修正を経て2016年予算を確定し1月から計画実施を目標に活動を進めていきます。

水道課(WSD)、水道規制室(WASRO)への支援は、引き続き、WSD:①水道ビジョン、②PPP、WASRO:①水道事業ガイドライン報告書・年報、②水道統計です。

それぞれOJTで検討した後、月例分科会、行政会議で共有、再検討し全体の理解、了承を経て次のステップへ進んでいます。

この期間には短期専門家に加えて2名のインターンがMaWaSUに参加しました。水を専攻する大学・大学院ではないからこそ、水の大切さ、水道事業の大切さや国際貢献の難しさなど実際に体験・勉強してもらうことが目的です。それぞれ興味を持った事柄に着眼し、専門家団やカウンターパートから情報収集をしたり、自らアンケートを実施したりしました。最終報告では驚くほどの水、水道、MaWaSU活動の理解が深まったように感じられます。次回、インターン体験記を「プロジェクト・ダイジェスト」で紹介したいと思います。



OJTを行う短期専門家

C/P活動進捗報告:WASRO(続き)

前号で紹介したWSDが将来のラオスの水道はどうあるべきかという方向性を示し、それに向けての推進および管理監督であれば、水道規制委員会(WSRC)は水道公社をはじめとする水道事業者を管理監督する役割を担っています。WSRCは公共事業運輸省大臣の直属の組織であり、委員会の事務局として水道規制室(WASRO)が設置されています。



水道事業ガイドライン作成を支援する短期専門家

MaWaSUによるWASROへの支援は、①現行ガイドライン「Guidelines on Service Performance Targets for Water Supply and Regulatory Monitoring of Service Level」運営に支障をきたしていた業務指標計算方法の確定による9KPI全国展開、②現行ガイドライン(9KPI)を発展させた水道事業ガイドライン(ドラフト版・モニタリング業務指標合計23PI=水道公社が作成する長期計画に用いる23PIに符号)、③水道事業ガイドライン報告書、④水道統計があります。

②水道事業ガイドラインは2015年3月に全国展開(試行)が行われました。③水道事業ガイドライン報告書は従来のWASRO年報と統合すべく現在OJTが実施されています。また、④水道統計も従来のデータ収集を踏襲・発展する形で統計書作成につなげるOJTが実施されています。

②水道事業ガイドラインの特長は、水道の仕事を明文(規格)化し、①「水道の使命・目的」、②「活動要素と各活動」、③「活動の評価(業務指標による評価)」によって表したことです。すなわち、水道とは何のためにあるのか、水道事業の施設および維持管理は何か、何ををもってその事業を評価するかを明らかにしたものです。水道事業ガイドラインは水道公社にとっては内部モニタリング(自社の現状・目標達成状況をモニタリング)、水道行政にとっては外部モニタリング(国が示した方向性に水道公社の事業が合致しているかをモニタリング)するツールとして使用されます。

③水道事業ガイドライン報告書・年報、④水道統計の進捗は随時報告していきます。

今回は3パイロット水道公社が作成・実施している長期計画に焦点を当てて紹介したいと思います。

The Capacity Development Project for Improvement of Management Ability of Water Supply Authorities

Intern in JFY2015



Ms. Haruka Anzai
Intern in Project MAWASU
Intern period: 26/07/2015 - 30/09/2015

Hello. My name is Haruka Anzai. I am a 3rd year student studying international relations. I transferred from a vocational school in last April. First, let me thank you for welcoming me to the project. I am motivated to learn there. My motivation comes from my experience of water cut in Fukushima and Fiji caused by natural disasters, and acute gastroenteritis for a week in Fiji as a result of drinking tap water for 2 weeks. I am very positive and think important thing is to enjoy learning, looking forward to seeing you.
Thank you.



Ms. Kanae Sato
Intern in Project MAWASU
Intern period: 15/08/2015 - 30/09/2015

Nice to meet you.
My name is Kanae SATO.
I'm graduate student of Kobe University.
When I was high school student, I visited Laos.
Since then, I like this country.
I'm interested in the water resources and the poverty of Laos.
Then, I'm very glad to take part in this project.
Please talk to me anytime.
Thank you.

2015年度インターン



2015年3月に実施された水道事業ガイドライン全国展開会議

*** 皆様のご意見・ご感想をお待ちしております ***

ラオス水道公社事業管理能力向上プロジェクト事務所

Eメール/電話 : jicapimawasa@gmail.com / (+856-21) 260493

プロジェクトホームページ : <http://www.jica.go.jp/project/laos/012/index.html>